

## 生演奏で楽しむ音楽科

～心豊かなひと時～

### <第19回講義 アメリカの音楽の魅力②ポップス>

- ・日時 2024年 2月 2日(金)10時～12時
- ・場所 池田市・ナムの広場
- ・講師 松本城洲夫先生
- ・演奏 アンサンブル・サビーナ



#### 講義内容

<アメリカの音楽の魅力②ポップス>と題しての講義で、概要は以下のとおり。

1. 「ポップス」は「ポピュラー音楽」という意味で使われているが、語源からいうと「時流に乗った(時代の精神を反映している)」という意味で、いわば「流行歌」とも言えるが、一般的には「クラシック音楽以外の音楽」を指す言葉と考えてよい。
  2. アメリカ音楽を歴史的に見ると、ひとつは世界中から集まってきた多種多様な民族音楽という流れがあり、その主流はアフリカ系黒人奴隷の労働歌を土台としてできた、いわば「ブラック・ミュージック」(ブルース、ジャズ、リズム・アンドブルース、ロックンロール)である。
- 他方、19世紀初頭から白人労働者が歌った「カントリー・ミュージック」が盛んとなったが、やがて「ブラック・ミュージック」と「カントリー・ミュージック」の融合が起きることとなる。この融合において多大な役割を果たしたのがエルビス・プレスリーである。
3. きょうの講義でアメリカ音楽のすべてを話すことは困難であるので、私の筋書きで話を進めたい。

#### (1) スティーブン・フォスター

ペンシルバニア州のピッツバーグに隣接する小さな町にアイルランド系アメリカ人として、裕福な家庭に生まれた。アイルランドは民謡がたくさんある国で、音楽の才能にも恵まれていた彼はアイルランド民謡を聴いたり、演奏したりという環境の中で育ったほか、親しい楽器商との交際からベートーヴェンやモーツァルトなどのクラシック音楽について学習することができた。幼少のころから、黒人労働者が運搬船の中で歌う労働歌を聞きながら音楽の素養を身に付け、たくさんのパーラーソング(応接間で演奏する曲)や、 minstrel(劇団名)のショーで演奏する曲を作曲した。

彼の音楽はアイルランド民謡、クラシック音楽、スピリチュアル(黒人霊歌)の融合としての特徴を有しており、民衆に愛され多大の評価を受けて、今や「アメリカ音楽の父」と呼ばれる。

著名な作曲に、「おお、スザンナ」「オールドブラックジョー」「懐かしきケンタッキーの我が家」「主人は冷たき土の中に」「草競馬」「スワニー川(日本語訳は「故郷の人々」)」などがある。

**歌唱と伴奏** 「懐かしきケンタッキーの我が家」

#### (2) ジョージ・ガーシュイン

ブルックリンの貧しい家庭に生まれた。彼の伝記では、最初に聴いた音楽がドヴォルザーク作曲の「ユーモレスク」とある。処女作の「スワニー」が認められ、その後に「ラブソディー・イン・ブルー」や、オペラ「ボギーとベス」を作曲。

**演奏**…フォスター作曲の「スワニー川」と、ガーシュイン作曲の「スワニー」をメドレーにて

**DVD**…ガーシュイン作曲の「ラブソディー・イン・ブルー」(部分)

**演奏**…ガーシュイン作曲の「サマー・タイム」(「ボギーとベス」の中のアリア)

### (3)アントニン・ドヴォルザーク

1892年にチェコで活躍していたドヴォルザークが、「アメリカ国立音楽院」に招聘された。これは、アメリカ独自の音楽文化を醸成したいとの要請によるものであった。彼はアメリカのスピリチュアル(黒人霊歌)や先住民族の音楽を研究し、その成果として、のちに「交響曲第9番・新世界より」を完成させた。曲の中には黒人音楽が随所に取り入れられており、その中でも「家路」のテーマはだれもが知っているメロディである。

**演奏**…「家路」のメロディ

**全員での歌唱**…「静かに揺れよ懐かしのチャリオット」

### (4)コーラスグループなどの活動(「ミルス・ブラザーズ」「ゴールデン・カルテット」「フェニックス・シンガーズ」「ピーター・ポール・マリー」…などの紹介)

このころから、クラシカル・クロスオーバー(クラシックの歌手がポピュラー曲を歌う)の時代となり。現代のアメリカの音楽文化が形成された。

**歌唱と伴奏**…「放浪者の子守歌～500マイル」(ホーボンの歌)

**演奏**…「オンリー・ユー」

**DVD**…エルビス・プレスリーの「好きにならずにいられない」

**全員での歌唱**…「勝利を我らに」

**全員での歌唱**…「千の風になって」



### 受講後の感想

言わば、「アメリカ合衆国の歴史を音楽文化という断面から眺める」という講義でもありましたが、その歴史観はなかなか興味ある内容でした。われわれの世代には「進駐軍の持ちこんだ音楽」ではありましたが、日本の流行歌とは比較にならない魅惑に満ちたメロディや歌詞が、アメリカの豊かさと共に強い憧れでもあったことを改めて思い起こしながらの受講でした。フォスターの作品についての評価(功罪)は様々あるようで、機会があれば興味をもって調べてみたいと思いました。(瀬戸)